

令和5年度第1回鈴鹿市健康づくり推進協議会 議事録（概要）

日 時 令和5年10月5日（木）13時30分～15時30分

場 所 鈴鹿市保健センター 2階 すこやかホール

出席者 委員：尾崎 郁夫，山中 智博，山路 由実子，杉野 浩二，栗本 元子，岡 宏次，
元橋 庸好，上荷 裕広，前川 和子，藪田 啓介，山路 照美，亀井 秀樹，
山本 勝也，益川 江里子，藤井 さゆり，樋口 侑佳
事務局：健康福祉部長，保険年金課長，スポーツ課長，地域医療推進課長，
健康づくり課長，健康づくり課管理GL，健康づくり課母子保健GL，
健康づくり課成人保健GL

傍聴者 なし

会議概要

1 開会

○資料確認

2 委員の紹介

○委員自己紹介

○会議成立の報告

○会議の公開について

3 あいさつ

○杉野副市長あいさつ

○尾崎会長あいさつ

4 協議事項

（1）第2期鈴鹿市健康づくり計画と鈴鹿市自殺対策計画の令和4年度の実施状況について

○資料1，2，3説明（事務局）

【質疑応答】

議長 まず，健康づくり計画の実施状況についてはいかがか。

委員 資料1の8ページに脳ドックがあるが，具体的にはどのように進められたのか。

事務局 対象者は40～74歳で，定員は700人である。市内4つの医療機関，鈴鹿中央総合病院，鈴鹿回生病院，塩川病院，かわぐち脳神経クリニックに協力してもらい，それぞれに定員を定めており，申し込みいただいて，多い場合は抽選とした。

委員 脳ドックの受診は無料ということか。

事務局 自己負担額がある。

委員 4ページの健康教育に関しては，毎月，市民健康講座で医師会の先生方がお話をされているものか。

事務局 法律的には健康増進法に基づくものであり，市民を対象に実施している。医師会と連携し，ふれあいセンターで市民健康講座を実施しており，その他にも保健師，

栄養士、健康づくり課職員が各種教室を行っている。

委員 医師、保健師、健康運動指導士、助産師などの教室は具体的にはいつ実施されているのか。

事務局 年間を通じて、子ども対象、40歳以上対象、全年齢対象など、いろいろある。広報やホームページで啓発し、例えば生活習慣病や心についての教室などを開催している。

委員 存じ上げなかった。ありがとうございました。

委員 栄養・食生活のところで、食物アレルギーに関して過敏になっている親が多くなっていると感じているが、離乳食教室などではアレルギーに配慮した食事の進め方などについて教育や相談をしているのか。

事務局 アレルギーを心配される方がいるので、卵の摂取など、アレルギーが心配されるような食材に対してどのような量で、どのように進めるか栄養士が説明している。教室での全体的な指導のほかに、個別の相談も受け、指導をさせていただいている。

委員 承知した。

事務局 先ほどご質問のあった脳ドックだが、自己負担金額は14,400円で、市が21,210円を補助している。

委員 院内でもっとアピールしてもいいのか。

事務局 定員など内容を充実させていきたいと考えているので、またご協力をお願いしたい。

議長 これは、定員700のうち530件実施したということか。

事務局 そのとおりである。

議長 他はいかがか。

では、資料2の自殺対策計画の取組状況についてはどうか。令和4年度は自殺者が増えたとのことだが、年齢構成はわかるか。子どもは多くなかったということだったが。

事務局 詳細は確認するが、20歳以下はお伝えしたとおり3人であった。次期自殺対策計画にも関連するが、自殺対策プロファイルから、高齢者、生活困窮者、勤務問題の3つの重点目標が挙げられている。令和4年で年代別では30～39歳が20.9%で最も多く、2番目が50～59歳で16.3%、3番目が40～49歳となっており、30～59歳が多い状況である。その次は70～79歳が多い。

議長 半分は働き盛りの方ということである。

委員 ここに出てくるメンタルパートナーとは、どこでどういうことをされる方か。

事務局 全国的にはゲートキーパーと言われる。専門的知識を持っているわけではなく、悩んでいる方がいた場合、見守り、話を聞き、専門機関につなげる役割を担っていただく。認知症でいうと認知症サポーターにあたる。見守りながら、必要な時に専門機関につなげるように、心の片隅に置いておいてほしいということを健康講座や研修などをお願いしている。自殺者は中高年の男性が多いので、企業とコラボして浸透していければと思って実施している。

委員 広くそういう人を養成して自殺を防ぐという理解でよろしいか。

事務局 そういうことを知っていただきたいという研修になる。

議長 自殺に対して予め予防措置を取られていた人がどれぐらいいるかわかるか。

事務局 消防統計を合わせて見る必要がある。こちらの方への相談の電話は度々あるが、行為を起こすわけではない。うつなどは衝動的なこともあるので、具体的に何人が未然に防げたかというのは分かりかねる。

議長 精神科の受診歴やゲートキーパーのあるなしは把握できるのではないか。それ以外の突然亡くなられた方の数は把握できるのか。

委員 保健所では死亡小票のチェックはできるが、死亡診断書の中に詳しく書いていただくとわかるが、書かれていないとわからない。亡くなった方の情報はそこにしかない。この死亡統計の情報と警察統計とは別集計になる。情報をひとつにまとめるのは難しいところがある。

議長 細かなところまではよいが、突然自殺した人の背景がわかると良い。

委員 死亡診断書の原因の中で例えば「うつ病」と記載があればこちらも把握はできるだろう。

議長 把握しているものは書かれてくるということか。

では、次の協議事項に進める。

(2) 第3期鈴鹿市健康づくり計画及び第2期自殺対策計画の素案について

○資料4 説明（事務局）

【質疑応答】

議長 まず、健康づくり計画について何かご意見はないか。

委員 いくつか気になる点がある。鈴鹿市の他の計画である、データヘルス計画や介護保険事業計画、総合計画などの市のほかの計画との位置づけがわかりにくい。単品で出しているという印象があるが、自分の部署だけでやるのは難しい。いろんな計画との連携でやっていくことを図示してもらい、市民にも、関係者にも、行政にも意識してもらうようにしたほうが良い。

中間評価のことが92ページに書いてあるが、市民を対象に行うものなので、市民にも意識をもってもらえるように、前のあたりにも中間評価をやることを明記しておいた方がよい。

今までの取組の結果が48ページにあり、最後に目標値を書いてある。△印のついているところは重点的に取り組む、ということがわかりづらいため、数字のついているところを色づけするなり、達成が十分でなかったところに力をいれていくなど明示してはどうか。

自殺対策について、●印のない空白のところが目立つ。全部、保健センターでやるわけではないので、関係課を入れるなりして、他との連携でやることを明示してはどうか。

事務局 計画の位置づけの説明は3ページに入れており、総合計画が最上位であり、他との整合性を取ることを記載している。

中間評価のところも、計画期間のところに計画の見直しを行うことを書かせても
らっている。

委員 市民が見たときに「見直しを行う」からは意味がわからない。「アンケートを実施
します」など具体的に書いた方がよい。

事務局 重点的なところに印をすること、担当課を明記することについても、全体的なバ
ランスを見て分かりやすくなるよう検討したい。

議長 内容についてはどうか。

委員 49 ページのアンケートの内容について、質問形式・設問はずっと一緒か。

事務局 指標になっているもののアンケートの設問は、健康づくり計画策定当初から同じ
である。平成 23 年に最初の計画を策定しており、平成 26 年、現行の 30 年、昨
年のアンケートの 4 回同じものである。

委員 歯科の場合、例えば「8020」が 50%、55%超えている時に、同じことを訊いてい
ても意味が無い。少しずつ変えてもいいのではないか。この計画については、来
年から 8 年間だが、今年の 6 月に国の経済諮問会議の「骨太の方針」で「国民皆
歯科検診」と書かれたが、どういう中身になるか見えてこない。もしそうなら学
校保健はどうなるか。歯周病検診はどうなるか。早くて 3 年で、少なくともこの
8 年間の間には何かが入ってくると思われる。それをどこがやるのかというと、
市町村だろうと思う。これに対する歯周病検診、後期高齢者健診との含めたこと
を考えたほうが良い。

事務局 国民皆歯科検診になりそうだということは動向を見ている。中間評価もあるので、
そこで方向性も考えていきたい。

委員 健康づくりも自殺対策も地域の団体が果たす役割が大きいですが、4 ページの下
の表の中に関係機関の役割をはっきりと書いてもらうほうがいいのではないか。
計画の中で具体的な取り組み内容が書いてあるが、市だけの取組ではなく、市が
団体の取組を支援するものもあり、そういうものも入れてもらえばと思う。
食生活の話があったが、社会福祉協議会で生活困窮者への食糧支援を行っている
が、送りたい食生活が送れない家庭への支援や対策をどうするかの見点も欲しい。
自殺対策に関連することでは、相談窓口に関することが書いてあるが、社会福祉
協議会でも総合相談窓口を行政と一緒にっており、そのような相談が自殺対策
にもつながっているのだから、そういうこともどこかで触れていただければと思う。

事務局 ご意見をもとに考えたい。

委員 歯周病検診はたくさん受診されているが、検診後 1 か月以内に來てもらうと初診
料や再診料が免除となるが、1 か月以内の予約が取れず、1 か月を過ぎてからに
なる人もいます。もう少し期間が伸びればと思う。

糖尿病と歯周病との関連があるが、糖尿病の予防事業の中で歯周病のチェックを
盛り込んでもらえると良いと思う。

事務局 先ほどの初診、再診は後ほど教えていただきたい。糖尿病と歯周病の関連した具
体的な事業も相談させていただきたい。

議長 食生活の問題などあるが、結局、子どもの時にちゃんと教えておくことが大事で

ある。子どもには学習する機会があるので。学校関係で栄養指導をできる指導士が少ないことなどが問題になっている。朝ごはんの重要性や野菜を食べることの必要性などを知識としてちゃんと教えておく必要があり、教えないと大人になってからできないので、子どもの教育はとても大事である。大人になると知っていてもなかなかできない。運動に関しても、今の子どもたちは運動をする機会も場所もなくゲームばかりしているので、体力テストでも良い成績を収めていない。そのようなことに対して根本的な、シリアスな対策を取ってもらいたい。運動になじんで体を動かすことの楽しさを教えていかないといけない。子どもの教育で知らしめておくと、大人になってからも考える。そういったところに力を入れて、人も必要だからお金もかけないといけない。学校の取組や公園のあり方など総合的な動きとして考えてもらいたい。それを強調して欲しいと思う。

委員

自殺の問題は議会でも重要視している。心に傷を受けた人の相談をよく受ける。心身一体で計画を立てるのは大事だと考えている。他の計画との整合性だが、子ども条例、子ども権利条例を作っていくことになるだろうが、子どもの問題について、他の部署にも意識を持ってもらおうと新しい施策が出てくる。こういう場に学校関係の部署を含んでいただくのもひとつだと思う。

先ほどの話に出た地域の役割については、民生委員、自治会長からは「地域で支えろといわれても難しい」と言われる。なり手もない。突然、何の拍子もなくということも起こっていて難しいが、地域振興部にも意識を持ってもらうことも大事である。また、子どものSOSというのも難しい。デジタル化の中で民間企業では、Eメールのやりとりでチェックしているとのことである。子どもが持つタブレットで、今日の気分を入力するソフトもある。学校ではタブレットを使った教育をしているので、そういうデジタルの活用法を考えてもらえればと思う。

委員

自殺対策と健康づくりの取組内容について、健康づくりは分野ごとに個別に市の取組を付けているが、自殺対策は別表になっているのはなぜか。健康づくりの表示ほうが見やすいと感じる。

健康づくり計画の栄養について、孤食に関することが全年齢の課題となっているが、市の取組としては乳幼児期しかないように思える。他の年齢の孤食の取組もあると、アクションにつながる。

住民主体の通いの場で普及啓発するということについては栄養にしかないが、運動や心にも関連するのではないか。

健康マイレージだが、心だけ入っていないと思う。心にも通ずるものがあるので入れてはどうかと思う。健康管理について、健康づくりの継続を促すのもマイレージの目的なので、その一文をいれることも検討してもらいたい。

事務局

市の取組の表の挿入位置については、当初、第6章でもそれぞれに入れていたが、「生きることの促進要因」についてはかなりのページ数に渡るため、分かりにくく、見づらかったので現案のようにした。

孤食や食育のことについては、乳幼児期に限らず出前講座を行い、相談・保健指導も全年齢に入れており、食育や孤食も入ってくる。年齢は限定していない。

介護予防やマイレージについては検討させてもらう。

委員 コロナ前には、県からの要請で、小学校で「がん予防」の授業があり、行っていた。現在は学校の先生が引き継いでやっている。がんの予防については、規則正しい生活や食事、たばこなどについての教育にもつながるので、学校の教育をやるならお手伝いさせていただくので、具体的に検討して欲しい。

事務局 医師会との意見交換会でも「がん教育」や「いのちの授業」をされていると聞いている。教育委員会とも連携を取っていけたらと思う。

委員 80 ページの一覧の「民生委員…」については、高齢者のための取組のような印象なので、そこに「主任児童委員の相談」について入れてもらうと良いのではないか。主任児童委員に相談して、関係機関につなげるようにしてもらえると、子育て中の親への支援になる。

事務局 検討させていただく。

委員 計画の体系について、56 ページ、5 でアルコールの健康への影響に関する普及・啓発となっているが、分かりにくいのでアルコール依存症や飲み放題の問題についての考え方を入れてはどうか。自殺対策については啓発だけで解決のことがない。SNS を使って相手が見える形での取組を進めていただきたい。

事務局 参考にさせていただく。

議長 自殺を考えている人へのコミュニケーションのアンテナをたくさんつくることが大事だろう。誰かに伝えたいと思っているはずである。

事務局 SNS の相談も普及してきている。発信して、つながっていければと思う。

議長 それでは事務局にお返しする。

5 その他

○次回の推進協議会は2月の予定。

○健康福祉部長あいさつ

6 閉会

以上